

新規事業評価調書
【河川事業】

二級河川 武庫川水系 武庫川
流域治水対策河川事業
(本川、支川大堀川)

土木局河川整備課

資料目次

1 「武庫川水系河川整備計画」の検討経緯と平成 23 年度新規事業箇所選定の考え方

- (1)「武庫川水系河川整備計画」の検討経緯河整 - 1
- (2)河川整備計画に係る治水対策河整 - 2 ~ 3
 武庫川計画平面図河整 - 4
- (3)平成 23 年度 新規事業箇所選定の考え方河整 - 5

2 個別事業箇所

【二級河川武庫川水系武庫川流域治水対策河川事業（本川）】

- (1)投資事業評価調書河整 - 6 ~ 7
- (2)事業箇所 位置図河整 - 8
- (3)下流部築堤区間（計画平面図、整備状況、事業スケジュール）河整 - 9 ~ 11
- (4)新規遊水地（計画平面図、整備状況、事業スケジュール）河整 - 12 ~ 13
- (5)河川事業の費用便益比河整 - 14

【二級河川武庫川水系武庫川流域治水対策河川事業（支川大堀川）】

- (1)投資事業評価調書河整 - 16
- (2)事業箇所 位置図河整 - 17
- (3)計画平面図河整 - 18
- (4)整備状況河整 - 19
- (5)事業スケジュール河整 - 20
- (6)河川事業の費用便益比河整 - 21

3 参考資料

- (1)過去の被害状況写真河整 - 22 ~ 23
- (2)浸水状況（当時の新聞記事）河整 - 24 ~ 25
- 武庫川水系河川整備計画(案)の概要河整 - 26 ~ 29

1 「武庫川水系河川整備計画」の検討経緯と平成 23 年度新規事業箇所選定の考え方

(1) 「武庫川水系河川整備計画」の検討経緯

昭和 58 年台風 10 号を契機に、昭和 62 年度から河川改修事業に着手。平成 5 年度には、武庫川ダム建設事業に着手した。

その後「ダム建設は武庫川渓谷の自然環境に与える影響が大きい」というダム反対の声が大きくなり、平成 9 年の河川法改正も踏まえ、平成 12 年 9 月に「合意形成の新たな取り組みを行うとともに、総合的な治水対策についてゼロベースから検討する」ことを知事が表明した。

これを受け、学識経験者や地域住民の幅広い意見を反映させた計画を作成するため、平成 16 年 3 月に武庫川流域委員会を設置した。

平成 18 年 8 月、武庫川流域委員会が提言書「武庫川の総合治水へむけて」を知事に提出。

その後、武庫川流域委員会及び河川審議会の審議を経て、平成 21 年 3 月に「武庫川水系河川整備基本方針」を策定した。

さらに平成 22 年 1 月、「武庫川水系河川整備計画(原案)」を武庫川流域委員会に提示し、同年 9 月に「武庫川水系河川整備計画(案)」をとりまとめた。

その後、関係市長の意見聴取、パブリック・コメント手続きを行い、「武庫川水系河川整備計画(案)」を確定し、平成 22 年 12 月に国土交通大臣へ同意申請を行う。

表 1 これまでの経緯と武庫川水系河川整備計画策定までのスケジュール

時 期	内 容
昭和 58 年 9 月	台風 10 号による浸水被害が発生 河川改修事業と武庫川ダム建設事業のきっかけ
昭和 62 年	河川改修事業に着手（河口～名塩川合流点までの河床掘削を開始）
平成 5 年 4 月	武庫川ダム建設事業に着手
平成 12 年 9 月	知事が武庫川の治水対策に係わる新たな取り組みを表明 「合意形成の新たな取り組みを行うとともに、総合的な治水対策についてゼロベースから検討する」
平成 16 年 3 月	武庫川流域委員会を設置
平成 18 年 8 月	流域委員会が提言書「武庫川の総合治水へむけて」を知事に提出
平成 21 年 3 月	「武庫川水系河川整備基本方針」を策定
平成 22 年 1 月～ 平成 22 年 9 月	流域委員会において「武庫川水系河川整備計画(原案)」を審議 9 月 16 日に「武庫川水系河川整備計画(案)」をとりまとめ
平成 22 年度 (10 月以降)	関係市長からの意見聴取 パブリック・コメント手続き 国土交通大臣への同意申請 国土交通大臣の同意 「武庫川水系河川整備計画」の策定
平成 23 年度	事業着手

(2) 河川整備計画に係る治水対策

武庫川の想定氾濫区域内の人口や資産は、全国の国管理河川の上位クラスと肩を並べており(全国 10 位)、その中でも下流部築堤区間の沿川は、人口・資産が高度に集積している(想定氾濫区域内人口約 100 万人)。このため、ひとたび堤防が決壊し氾濫すると甚大な被害が予想される。

堤防の決壊には至らなかったが、昭和 62 年より進めてきた河川改修事業の目標流量 $2,600\text{m}^3/\text{s}$ を超える規模の洪水 $2,900\text{m}^3/\text{s}$ が平成 16 年に発生していることを踏まえると、築堤区間における流下能力の低い区間の安全性向上は、喫緊の課題となっている。喫緊の課題に対応でき、早期かつ着実に整備効果が発揮できる対策として、河床掘削や堤防強化、既設青野ダムの洪水調節容量の拡大、武庫川上流浄化センター内の用地を活用した遊水地の整備や、学校・公園・ため池等に雨水を一時的に貯留する流域対策を選定した。

これらの対策を全て実施することにより、武庫川下流部の築堤区間において、戦後最大洪水である昭和 36 年 6 月 27 日洪水と同規模の洪水の流量を安全に流下させることができる。

河川整備計画の一般的な計画対象期間は 20～30 年であるが、早期に整備効果を得るため、最短の 20 年に設定した。

【治水対策選定にあたっての着眼点】

着眼点 1 解決すべき治水上の喫緊の課題

- ・平成 16 年 10 月の台風 23 号では、昭和 62 年度から進めてきた河川改修事業の目標流量 $2,600\text{m}^3/\text{s}$ を上回る $2,900\text{m}^3/\text{s}$ の洪水が発生。
- ・築堤部における流下能力の低い区間の安全性向上が、武庫川水系における喫緊の課題

着眼点 2 千苅ダム治水活用や新規ダム建設の治水対策としての課題

- ・千苅ダムの治水利用や新規ダムの建設は、合意形成に多大な時間を要する。
- ・また、完成するまでに十数年の時間を要し、その間は整備効果を発揮できない。

選定した治水対策 ... 喫緊の課題に対応でき、早期に整備効果を発揮できる対策を選定

- 河川対策...河床掘削、堤防強化、既設青野ダムの洪水調節容量の拡大、武庫川上流浄化センター用地を活用した遊水地 等
- 流域対策...学校・公園・ため池に雨水を一時的に貯留する流域対策 等
- 減災対策...水害リスクに対する認識向上 等

計画基準点(甲武橋)における目標流量とその配分

区分	目標流量	河川対策		流域対策
		河道対策	洪水調節施設	
現況	$2,720\text{m}^3/\text{s}$	$2,500\text{m}^3/\text{s}$	$220\text{m}^3/\text{s}$	-
整備計画	$3,510\text{m}^3/\text{s}$	$3,200\text{m}^3/\text{s}$	$280\text{m}^3/\text{s}$	$30\text{m}^3/\text{s}$
(基本方針)	$4,690\text{m}^3/\text{s}$	$3,700\text{m}^3/\text{s}$	$910\text{m}^3/\text{s}$	$80\text{m}^3/\text{s}$

図 1 治水対策選定の考え方

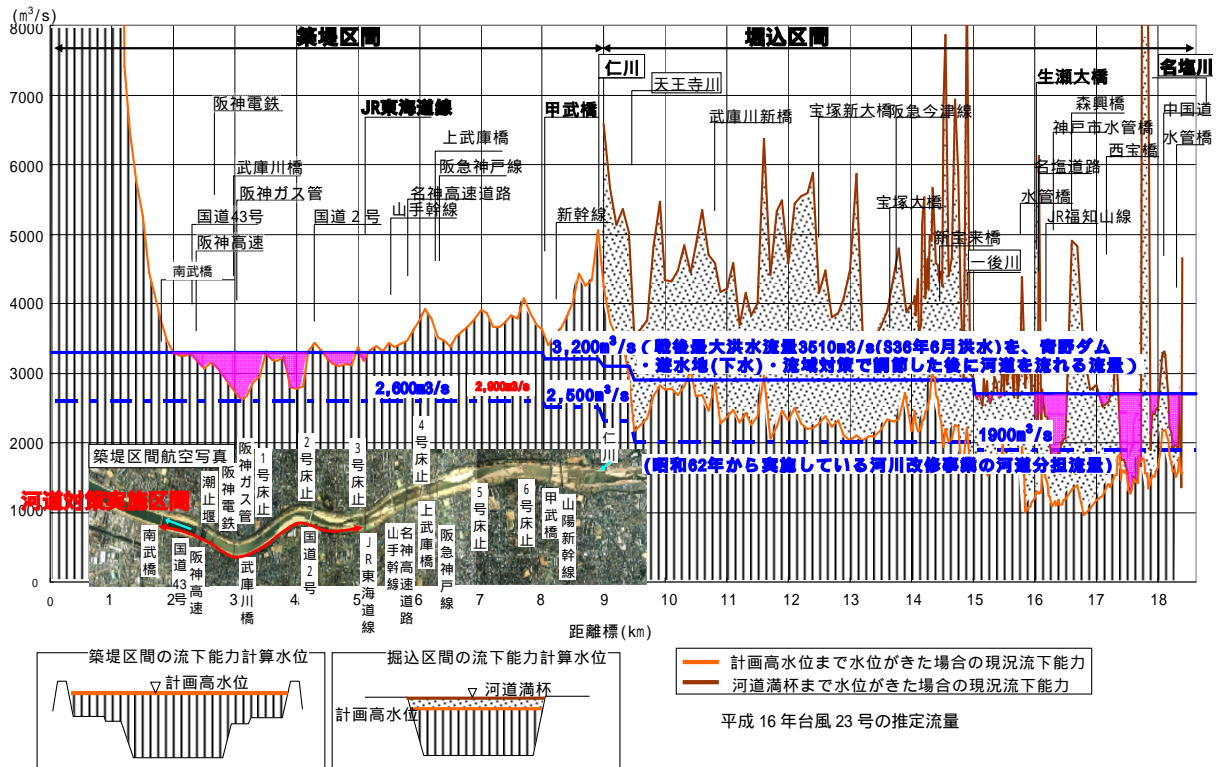
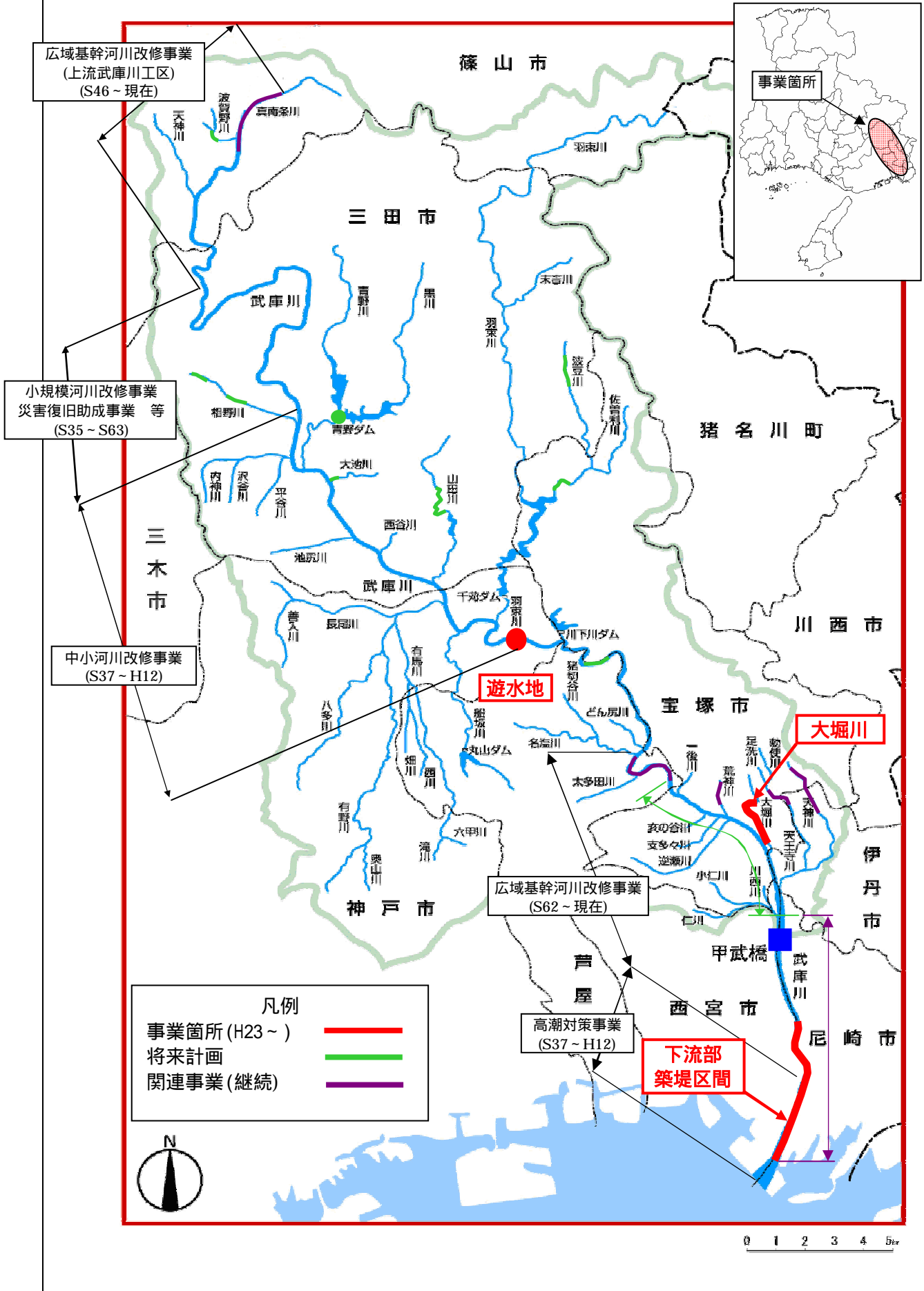


図2 現況流下能力と河道への配分流量

表2 河川整備を実施する区間

河川	施工の場所	区間延長	整備内容	
下流部	築堤区間	河口～5.0km (河口～JR東海道線橋梁下流)	河床掘削 高水敷掘削 低水路拡幅等	
		1.8km～9.0km (南武橋～仁川合流点)	堤防強化 (浸透対策、浸食対策)	
	掘込区間	9.0km～15.9km	護岸整備、バラハット等	
		15.9km～18.4km (生瀬大橋～名塩川合流点)	河床掘削等	
中流部	武田尾地区	1.2km	バラハット等による溢水対策	
洪水調節施設	青野ダムを活用	-	予備放流量の拡大	
	新規遊水地の整備	-	遊水地	
上流部及び支川	大堀川	西田川橋～西ノ町橋(宝塚市)	1.2km	河床掘削 等
	天王寺川	伊丹市荒牧～宝塚市中筋 (伊丹市、宝塚市)	0.6km	堤防強化
	天神川	伊丹市萩野西～宝塚市山本西 (伊丹市、宝塚市)	3.8km	堤防強化
	荒神川	国道176号～荒神橋(宝塚市)	0.6km	河床掘削 等
	波豆川	滝本橋～島橋(宝塚市)	0.3km	河道拡幅 等
	波豆川	中河原橋～護魔池(三田市)	0.6km	河道拡幅 等
	山田川	山田滑谷ダム上流1,050m ～砥石橋上流500m(三田市)	1.9km	河道拡幅 等
	大池川	JR福知山橋梁 ～国道176号上流50m(三田市)	0.1km	河道拡幅 等
	相野川	洞橋～2級河川上流端(三田市)	1.4km	河道拡幅 等
	武庫川及び 真南条川	岩鼻橋～山崎橋(篠山市)	1.9km	河床掘削 等
	波賀野川	JR福知山線橋梁～西角橋(篠山市)	0.4km	河道拡幅 等

【武庫川計画平面図】



(3)平成 23 年度 新規事業箇所選定の考え方

平成 23 年度の新規事業箇所は、「武庫川水系河川整備計画」に位置づけられた対策のうち、喫緊の課題である下流部築堤区間の安全性向上を図るため、早期かつ着実に整備効果が発揮できる対策と再度災害の防止(家屋被害の有無、資産の集積度)の観点から、現時点の事業執行環境を考慮し、以下の 3 工区を選定した。

武庫川本川...下流部築堤区間の安全性向上に係る事業、沿川の資産集積が高い箇所から着手

下流部築堤区間

- ・武庫川の想定氾濫区域内で、最も人口・資産が集積している。
- ・堤防で氾濫を防ぐ築堤区間であり、ひとたび堤防が決壊すると甚大な被害が発生。
- ・河道配分流量 3,200m³/s に対し、流下能力が不足するネック箇所があり、その解消が武庫川水系全体における喫緊の課題である。

新規遊水地

- ・河道対策に比べ、比較的短期間で整備効果が発揮できる。
- ・下水道施設用地を一部転用し活用することにより、早期に事業着手できる。
- ・整備効果は、洪水調節により下流部全域の治水安全度が向上できる。

支川...沿川の資産集積が高い箇所から着手

大堀川

- ・下流部は過年度に改修済みであるが、当該区間は未改修であり、流下能力が低い。
- ・平成 9 年、平成 11 年、平成 12 年、平成 16 年、平成 19 年と浸水被害が頻発。

表 3 河川整備を実施する区間

河川	施工の場所	区間延長	整備内容	喫緊の課題への対応	再度災害の防止		
					浸水被害	家屋被害	市街化区域
下流部	築堤区間	河口～5.0km (河口～JR東海道線橋梁下流)	河床掘削 高水敷掘削 低水路拡幅等				
		1.8km～9.0km (南武橋～仁川合流点)	14.4km	堤防強化 ^{*1} (浸透対策、浸食対策)			
	掘込区間	9.0km～15.9km	6.9km	護岸整備 ^{*1} 、ハラハット等 ^{*4}			
		15.9km～18.4km (生瀬大橋～名塩川合流点)	2.5km	河床掘削等 ^{*3}			
中流部	武田尾地区	1.2km	ハラハット等による溢水対策 ^{*4}				
上流部(真南条川含む)	岩鼻橋～山崎橋(篠山市)	1.9km	河床掘削 等 ^{*3}				
洪水調節施設	青野タムの活用	-	予備放流量の拡大 ^{*5}		-	-	-
	新規遊水地の整備	-	遊水地		-	-	-
支川	大堀川	西田川橋～西ノ町橋(宝塚市)	1.2km	河床掘削 等			
	天王寺川	伊丹市荒牧～宝塚市中筋 (伊丹市、宝塚市)	0.6km	堤防強化 ^{*1}			
	天神川	伊丹市萩野西～宝塚市山本西 (伊丹市、宝塚市)	3.8km	堤防強化 ^{*1}			
	荒神川	国道176号～荒神橋(宝塚市)	0.6km	河床掘削 等 ^{*2}			
	波豆川	滝本橋～島橋(宝塚市)	0.3km	河道拡幅 等 ^{*4}			
	波豆川	中河原橋～護魔池(三田市)	0.6km	河道拡幅 等 ^{*4}			
	山田川	山田滑谷タム上流1,050m ～砥石橋上流500m(三田市)	1.9km	河道拡幅 等 ^{*4}			
	大池川	JR福知山橋梁 ～国道176号上流50m(三田市)	0.1km	河道拡幅 等 ^{*4}			
	相野川	洞橋～2級河川上流端(三田市)	1.4km	河道拡幅 等 ^{*4}			
波賀野川	JR福知山線橋梁～西角橋(篠山市)	0.4km	河道拡幅 等 ^{*4}				

凡例

- :平成23年度から事業着手
- :過年度から継続して事業中
- :今後着手

*1 維持修繕の事業(事業評価対象外)
 *2 宝塚市施行の都市基盤整備事業(事業評価対象外)
 *3 平成21年度に整備計画策定中の河川事業として報告済み
 *4 事業着手に向け、地元・関係市及び国土交通省等と事業内容等について調整
 *5 予備放流量の拡大に向けて試行中